

『marcel』は来年1月号から『経営とサイエンス』として生まれ変わります
『marcel』の集大成となる最終号(12月号)の特集をヌースフィットが手がけました

●『マルセル』最終号の特集は「還元剤図鑑」

裏面ページにあるように、これまでヌースフィットは『marcel』で数々の特集や解説を手がけています。

読者に真実を伝えるため、毎回多くの実験を繰り返してきました。

今回はさらに手間のかかる実験を行い、技術系専門誌『marcel』の集大成に相応しい「還元剤図鑑」が完成しました。

●「還元剤図鑑」は永久保存版

これまでの特集でも還元剤を採り上げていますが、「還元剤図鑑」では、この特集のためにヌースフィットが時間をかけて実験を行い、現在世に出回っている7種類の還元剤について、毛髪の引っ張り試験機や電子顕微鏡などを使い毛髪の強度変化まで掲載しています。

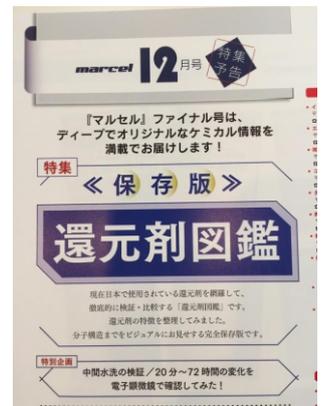
どの髪にどの還元剤を使うか、1サロンに1冊、迷ったときの参考書としてもお使いください。

●オリジナルの実験やグラフィックが満載

特集の冒頭では、7種類の還元剤をそれぞれウィッグに施術した画像がクイズ形式で掲載されています。どのウィッグがどの還元剤かわかりますか？

これもヌースフィットが手掛けた実験の一つ。ウィッグには還元剤毎の特徴がよく出ています。

さらに、「還元剤図鑑」のグラフ、イメージ画像などのグラフィックはヌースフィットのオリジナルで、還元剤の特徴がわかりやすく表現されています。



■『marcel』12月号特集案内



●ヌースフィットの講師が技術解説

ヌースフィットのセミナー講師を務めている北九州「ソフィア美容室」の平川さんが技術を担当して、モデル2名の施術例が掲載されています。

日頃スピエラやGMTを使いこなしている方の技術を参考にしてください。

■ソフィア美容室 平川氏



■テスト前のウィッグ
後半分はブリーチ毛



■BA東京世田谷支部での
毛髪科学セミナー風景
講習会場/Lei Blanca Tiare



●受講者の目が釘付けになった毛髪強度実験

「還元剤図鑑」をまとめるにあたり行った実験の一つを応用して、毛髪科学セミナーで還元剤別の毛髪強度変化を比較する実験を行いました。

実験用に用意した同条件の毛束を使い、濃度、pHを合わせた各還元剤を同じ時間作用させた後、各毛束にオモリをつけて吊るしてみたところ毛束の伸び方にかなり差が出ました。

この日の毛髪科学セミナー受講者であるBA東京世田谷支部の皆さんからは驚きの歓声とともに面白い！との声が上がリ、普段なんとなく使っている還元剤に対する理解が変わったようです。

「還元剤図鑑」ではこうした実験に応用した内容が解説されています。

※『marcel』12月号(最終号)は11/1発売です。

これまでにヌースフィットがかかわった『marcel』の一例

●『マルセル』の特集での実績

これまでにヌースフィットでは数多くの特集をつくり、ヌースフィットと縁のある美容師さんも『marcel』で活躍しています。



■話題となった2012年5月号

30ページにわたり、ヌースフィットが提唱する最新の毛髪成形理論「FMCB理論」を解説。ハイブリッドパーマ、W還元、ディアリーブロー矯正などに応用されています。



対談 スピエラ+システアミンによる「酸性ベース」のハイブリッド・パーマ技法の役割



■2014年1月号

FMCB理論による「ハイブリッド・パーマ」と7種類の還元剤を解説した還元剤のパワーグラフ特集。アライフ青木さんとAS岸口さんによるスピエラの対談もありました。



■2014年12月号

話題の還元剤「GMT」をヌースフィットが解説。ここでも還元剤のパワーグラフによって他の還元剤との違いを明確にしました。「チオ換算」とは何かを詳しく解説しました。



■2015年2月号

塩基性染料がなぜトリートメントに配合できるのか、酸性染料（ヘアマニキュア）との違いを解説しました。

■2012年6月号

ヌースフィットのセミナーでも活躍されたパリスさんの「カチオンコンプレックス」特集。



■2013年12月号

短期間で一世を風靡した「スピエラ矯正」のAS岸口さんもヌースフィット製品の使用者です。

■2012年3月号

コアブロック鈴木さんによるアルカリ度実験。解説をヌースフィットが行いました。



■2013年2月号、5月号
アイロンを一切使わない縮毛矯正。「ディアリーブロー」はFMCB理論を応用しています。



◆「きょうの毛髪科学」／ツイッター：#hairscience
フェイスブック：http://goo.gl/eSnfPh

株式会社ヌースフィット／東京都板橋区舟渡3-28-11 info@nousfit.co.jp
TEL:03-3966-1814 FAX:03-3558-9287